

令和 4 年 5 月 21 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02401

研究課題名(和文) 古代・中世中央ユーラシア世界の交通・交易・交流

研究課題名(英文) Traffic, Trade and Transactions in Ancient and Medieval Central Eurasia

研究代表者

松井 太 (MATSUI, Dai)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：10333709

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,300,000円

研究成果の概要(和文)：中国新疆・甘肅・内モンゴル地域からは各種の古代言語(古代トルコ語・モンゴル語・漢文・トカラ語・ソグド語・コータン語・チベット語・西夏語)の文献資料が発見されている。これらの出土古文献資料を利用して、西暦6世紀から14世紀の中央ユーラシアの交通制度・規定やその実態的運用、あるいは交易の態様や社会的・経済的諸相についての知見を、諸言語資料の分析から個別具体的に蓄積した。さらに、これらの個別研究の成果に立脚しつつ、言語横断的・通時的な比較分析により、中央ユーラシア世界の交通・交易の実態を総体的に解明することを目指した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

前項に示した各種言語資料について、班員それぞれの専攻する文献資料群を対象としてテキスト解読を進め、そのデータに立脚して中央ユーラシア地域の交通・交易さらには文化交流に関する実証研究を進めた。同時に、新疆・甘肅・内モンゴル地域を対象に現地調査を行なって地理的景観を把握し、文献上の情報の理解を立体的に深化させた。

文献資料を言語横断的に扱い、かつ現地調査とも接続させた研究作業は、世界的にみても高水準にある。また、班員の個別論文も、それぞれの専門領域において新規性ある成果として国際的にも評価されており、総体として中央ユーラシア史分野における日本の研究上の優位を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：Written monuments in the various ancient languages (Old Turkic, Mongolian, Chinese, Tocharian, Sogdian, Khotanese, Tibetan, and Xixia) have been excavated from the Xinjiang, Gansu, and Inner Mongolia of China.

Based on the philological and historical analysis on these multilingual written materials, we will elucidate traffic, trade and transactions in Ancient and Medieval Central Eurasia from the 6th to 14th century, focusing trade and various social and economic aspects. Furthermore, the results of these individual studies will be assembled comprehensively for multilinguistic and diachronic comparative analysis.

研究分野：中央ユーラシア史

キーワード：中央ユーラシア 交通 交流 交易 敦煌 トゥルファン チベット

1. 研究開始当初の背景

歴史上、中央ユーラシア北半の草原地帯に拠る遊牧民は、騎馬軍団の機動力・軍事力による広域支配を展開するとともに、中央ユーラシア南半に散在するオアシス都市の商業民の経済的・文化的ノウハウをその支配に利用した。商業民も、遊牧軍団の庇護のもと、その短距離・遠距離の交易活動を活発化させた。このような、中央ユーラシアの遊牧民・商業民集団の活動が、その周縁諸地域（東アジア・南アジア・西アジア・ヨーロッパ）との和戦両様の交通・交流を導き、結果として前近代のユーラシア世界史の総体的な展開の軸となったという認識は、近年、ようやく承認されつつある。また、古代・中世（ここではおおむね6世紀～14世紀をさす）の中央ユーラシア遊牧民・商業民の歴史を再構成する際には、彼ら自身、あるいは彼らと直接に対峙した「周縁」勢力がその最前線で書き残した、多言語にまたがる古文書・古文書史料の利用が必須であることも、広く周知されている。

2. 研究の目的

とくに新疆・甘粛・内モンゴル地域からは、おおよそ3世紀～14世紀という長期間にわたって当該地域で書き残された、各種言語（古代トルコ語・モンゴル語・漢文・トカラ語・ソグド語・コータン語・チベット語・西夏語）の古文書資料が出土・発現している。その中には、交通・交易に関わる公私の古文書（通行許可証、身分証明書、交通管理あるいは交易に関する帳簿類）などが含まれている。これらの出土古文書資料を利用して、6世紀～14世紀の中央ユーラシアの交通制度・規定やその実態的運用、あるいは交易の態様や社会的・経済的意義（人間・財の移動やその規模、物価の変動、官用交通制度の関係など）を、参加メンバーが個々に専攻する言語・地域・時代ごとに解明する。さらに、これらの個別研究における各時代・地域ごとの不明点を、言語横断的・通時的な比較分析を通じて相互補完的・演繹的に補うことにより、中央ユーラシア世界の交通・交易の実態を総体的に解明することを目指した。

3. 研究の方法

前項に示した各種言語資料について、研究代表者の松井太（古代トルコ語・モンゴル語）、研究分担者の赤木崇敏（漢文）・岩尾一史（チベット語）・荻原裕敏（トカラ語・コータン語）・橘堂晃一（古代トルコ語）・齊藤茂雄（漢文・古代トルコ語）・佐藤貴保（漢文・西夏語）・西村陽子（漢文）、研究協力者の坂尻彰宏（漢文・チベット語）・慶昭蓉（漢文・トカラ語・コータン語）らが、それぞれの専攻する文献資料群を対象としてテキスト解読を進め、そのデータに立脚して当該地域の交通・交易さらには文化交流に関する実証研究を進めた。

同時に、新疆・甘粛・内モンゴル地域を対象に現地調査を行なって地理的景観を把握し、文献上の情報の理解を立体的に深化させることに努めた。

ただし、特に新疆地域については、現地の政治情勢が著しく不安定化したことに伴い、現地調査を十分に実施できなかった。

4. 研究成果

(1) 班員共同による研究成果

①第一に、松井太・橘堂晃一・岩尾一史・佐藤貴保・赤木崇敏による、敦煌諸石窟に遺存するウイグル語・モンゴル語・サンスクリット語・チベット語・漢文（帰義軍・西夏時代）の題記銘文の資料集成の刊行を特筆できる（松井・荒川慎太郎編『敦煌石窟多言語資料集成』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2017年7月）。これは本研究課題の母胎となった敦煌石窟現地の共同調査の成果でもある。本書に集成された題記銘文は、おおよそ8世紀から14世紀にかけて敦煌に巡礼した諸民族の仏教徒が書き残したものであり、敦煌を中心とする仏教巡礼圏や仏教文化交流の解明にかかる一次資料となる。これらを集成した本書は、現在の敦煌石窟研究を主導する中国の学界においても注目されている¹。

②松井・岩尾・佐藤および研究協力者の坂尻彰宏（大阪大学全学教育推進機構准教授）・慶昭蓉（龍谷大学世界仏教文化研究センター客員研究員）は、敦煌・カラホト・トゥルファンを中心とする中央ユーラシア東部地域出土の公文書（行政文書）資料に関する研究論文を、学術雑誌『内陸アジア言語の研究』第33号（2018年12月）の特集号として刊行し²、漢語・トカラ語・コータン語・チベット語・西夏語・ウイグル語など多言語にまたがる出土行政文書とそれに基づく行

¹榮新江「敦煌石窟題記亟待全面調査整理与刊布」、北京大学・菊生學術論壇「敦煌石窟考古與藝術」ワークショップ、北京大学、2020年11月27～28日

(<http://www.ihss.pku.edu.cn/templates/learning/index.aspx?nodeid=128&page=ContentPage&contentid=4048>)

² 松井「ウイグル文供出命令文書の機能に関する再考察」、岩尾「古チベット語文書の行政術語」、佐藤「西夏の官文書の書式に関する基礎的研究」、坂尻「帰義軍節度使と公文書処理」、慶「略論古代龜茲文書製作傳統之萌蘖」。

政システムを通時的・地域横断的に比較検討するための基礎を提供した。

(2) 各種の研究集会の実施

①国際的なモンゴル帝国史研究の進展を反映して *Cambridge History of the Mongol Empire* が編集されていることから、その編者の一人である韓国国立ソウル大学の金浩東 (KIM Hodong) 教授を日本に招へいし、モンゴル時代のユーラシア交流を検討する研究セミナーを開催するとともに、大阪大学で開催された内陸アジア史学会大会でも講演いただいた (2017 年 10 月)。

②松井が主宰する研究会「中央アジア学フォーラム」の特別例会を開催して、大阪大学の招へい研究員として来日した付馬 (北京大学) 氏に講演いただき、あわせて最新の研究情報を交換した (2019 年 5 月)。

③研究期間末の 2020 年 3 月には、蘭州大学の中央アジア言語・文献・歴史研究者 4 名 (白玉冬・Tursunjan Imin・朱麗雙・張麗香) を招へいし、かつ本課題の総括ともなる国際研究集会を準備していたが、新型コロナウイルスの急速な世界的流行に遭い、中止を余儀なくされた。

(3) 海外における資料調査

研究代表者・分担者はそれぞれの関心にに基づき、英・独・仏・露・中国・トルコに所蔵される各種の文献史料の現地調査を実施した。研究代表者の松井太は、敦煌 (中国)・トルコ (イスタンブール大学)・ドイツ (ベルリン科学アカデミー) で資料調査を行なった。また、2020 年 2 月にはロシア・エルミタージュ美術館所蔵資料の調査を予定していたが、新型コロナウイルスの急速な世界的流行に遭い、中止を余儀なくされた。

(4) 研究協力者の海外での調査活動・成果発表

2017 年度には研究協力者の早川尚志 (大阪大学大学院博士後期課程) を中国新疆・甘粛・華北を横断する交通路の実地調査に、同じく研究協力者として荻原・慶の 2 名をヨーロッパで開催された国際学会に派遣した。2018 年度には、坂尻・慶を、それぞれ中国・ヨーロッパで開催された国際学会に派遣した。2019 年度には、坂尻をヨーロッパで開催された国際学会に派遣した。

(5) 各班員の研究実績

各自が分担内容に従って以下のような研究を進めた。いずれも精度の高い内容から、それぞれの専門的な領域において新規性のある成果として評価されると同時に、総体として中央ユーラシア世界史の把握・理解を深化させるという本研究課題の目的を果たしたものとみなし得る。

①松井太：ベルリン旧蔵の古ウイグル語文書から、仏教教団とマニ教教団の双方に言及する帳簿様文書を見出し、その歴史的背景を考察した。この帳簿様資料は高昌故城から発掘されたもので、その出土地点 (= ドイツ探検隊のいう寺院址 α) は、10 世紀末に西ウイグル王国支配層のマニ教から仏教への改宗に伴い、マニ教寺院から仏教寺院へ改築されたことが知られている。問題の帳簿資料のオモテ面はウイグル王からマニ教団への寄進とその分配に関係するのに対して、それから時間的に懸隔をおいて作成されたウラ面は仏教徒・マニ教徒双方への寄進に言及しつつ、仏教徒が集団の規模や寄進額のうえで優遇されていたという状況を示す。すなわち、ウイグル支配層の仏教化によるマニ教の衰退という情勢をあらためて確認できる一方で、11 世紀初頭頃にはなおマニ教団は仏教徒との共存を模索しつつ、ウイグル社会において一定の勢力を保っていたことを指摘した。

また、‘Imād al-Dīn Šayḥ al-Hukamā’ī (テヘラン大学)・渡部良子 (東京大学) 両氏と共同で、14 世紀イランのモンゴル系政権ジャライル朝君主が発行したモンゴル語・ペルシア語合璧勅書の文献学的校訂テキストと訳註を提示した上で、ペルシア語編纂史料や諸種のモンゴル語・チュルク語命令文と比較しつつ、ジャライル朝およびこれに先行するフレグ=ウルスの文書官房システムにおける多言語性、とくにモンゴル語・ペルシア語文書の複雑な発給過程を実証的に考察した。この知見は、ユーラシア東西におけるモンゴル諸政権の文書官房システムの分析にも波及するものであり、モンゴル帝国支配地域における多様な言語文化の併存状況の理解を深化させるものである。

また、上述 (1) の敦煌石窟のウイグル語題記銘文資料から、シリア文字ウイグル語題記 1 条をとりあげ、モンゴル時代の敦煌地域におけるウイグル人キリスト教徒と仏教徒の日常生活レベルでの相互関係を考察した。同じく、同一人物とその家族によるウイグル語題記銘文数条を抽出して、モンゴル時代の肅州 (酒泉) から敦煌に及ぶ巡礼圏・交通路を微視的に分析した。

また、最近に学界に紹介された、15 世紀のティムール朝のペルシア語文献にみえるウイグル文字チュルク語の書簡作成技法の指南書を検討して、これがモンゴル時代の「モンゴル命令文」の書写上の体例の影響を色濃く反映することを明らかにした。さらに、この「モンゴル命令文」の体例は、より古く 10 世紀~12 世紀の中央アジアのウイグル語書簡文化に淵源することを論証し、10 世紀から 15 世紀に及ぶチュルク・モンゴル遊牧民の書写文化の連続性に関する新知見を提示した。

また、トゥルファン地域出土の古ウイグル語 (古代トルコ語) 行政文書から、税役徴発に関わる行政命令文書を考察し、これらが唐の西域支配末期に軍事・交通維持の必要から導入された種々の物資徴発制度の運営に用いられた行政文書に機能的に淵源することを論証し、東部中央アジアの住民社会支配制度の 10 世紀から 14 世紀に及ぶ連続性を見出すことに成功した。

②赤木崇敏： 敦煌の帰義軍政権と周辺地域との婚姻外交や、10世紀敦煌の仏僧を取り巻く社会経済状況を分析した。また、敦煌石窟に遺存する漢文題記や供養人像をもとに諸石窟の構造・プランを分析し、10世紀敦煌における造窟活動の展開・編年を復元した。

③岩尾一史： 敦煌石窟の現地調査によりチベット語題記銘文を調査した。また、10世紀前半を中心に四川・青海・敦煌にまたがるチベット文化圏と交通を分析した。また、古代チベット帝国の土地調査と調査のプロセスに関連するチベット語行政文書の考察を進めた。

④荻原裕敏（2017年度，研究協力者；2018・2019年度，研究分担者）： ロシア・ドイツ所蔵のトカラ語仏教典籍と世俗文献を分析した。特に仏典については古代ウイグル語文献中に並行する資料があることを見出し、中央アジア地域の文化交流の一例を確証した。

⑤橘堂晃一： ウイグルからモンゴルへの仏教伝播の実相を示す仏典断片をロシア所蔵資料から発見し、テキスト校訂と歴史的考察を提示した。また、ウイグルと西夏・宋との仏教文化交流の実態を、ウイグル語仏典とトゥルファン・カラホト出土の図像資料をもとに明らかにした。

⑥齊藤茂雄（2017・2018年度，研究分担者；2019年度，研究協力者）： 突厥を中心とする古代遊牧民集団に関する史跡や遺物を対象として、中国北部の現地調査を実施した。対象とした地域は、黒竜江省・吉林省・中国内蒙古自治区・寧夏回族自治区・陝西省・山西省にわたる。

⑦佐藤貴保： 西夏人名・漢人名の比較から両者の文化交流を検討した。また、西夏語の官文書にみえる宋制からの影響や、西夏北部・西部の辺境地帯における文化交流等の諸状況を解明した。

⑧西村陽子： 中国・スウェーデン合同「西北科学考察団」により作成された諸種の地図の特性やその作成手法を歴史地理学的に検討した。また、中央～東部ユーラシアの交流・政治に関する既発表の論考をまとめた単著を刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 22件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 松井太	4. 巻 33
2. 論文標題 ウイグル文供出命令文書の機能に関する再考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内陸アジア言語の研究	6. 最初と最後の頁 109-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 52
2. 論文標題 モンゴル命令文とウイグル文書文化：ティムール朝期の『ウイグル文書教本』から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 待兼山論叢（史学篇）	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 2018-2
2. 論文標題 榆林窟第16窟叙利亞字回鶻文景教徒題記	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 敦煌研究	6. 最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 MATSUI Dai	4. 巻 -
2. 論文標題 Remarks on Buyan-Qaya: a Uighur Buddhist Pilgrim to Dunhuang	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Unter dem Bodhi-Baum: Festschrift für Klaus Rohrborn anlässlich des 80. Geburtstags	6. 最初と最後の頁 209-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 2019-2
2. 論文標題 高昌 寺遺址所出摩尼教・佛教寺院回鶻文帳歴研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中山大學學報	6. 最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木崇敏	4. 巻 3
2. 論文標題 曹氏帰義軍節度使系譜考：両支譜系所見10-11世紀的敦煌史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 絲路文明	6. 最初と最後の頁 111-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木崇敏	4. 巻 13
2. 論文標題 曹氏帰義軍節度使時代の敦煌石窟と供養人像(二)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 敦煌写本研究年報	6. 最初と最後の頁 79-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 IWAO Kazushi	4. 巻 61-1
2. 論文標題 Dbus mtha': Centre and Periphery in the Old Tibetan Empire	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Central Asiatic Journal	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.13173/centasiaj.61.1.0049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩尾一史	4. 巻 33
2. 論文標題 古チベット語文書の行政術語：dbyang(s), dkyigs, spad	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内陸アジア言語の研究	6. 最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩尾一史	4. 巻 2
2. 論文標題 敦煌チベット語文書にみえる古代チベット帝国治下の授戒儀式	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界仏教文化研究	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩尾一史	4. 巻 146
2. 論文標題 チベット支配下の敦煌における都督	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 龍谷史壇	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻原裕敏	4. 巻 40
2. 論文標題 ロシア所蔵トカラ語文献に関する覚え書き	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 1-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 OGIHARA Hirotoshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Two Fragments of Tocharian B laissez-passers Kept in the Berlin Collection	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Great Journeys Across the Pamir Mountains	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 OGIHARA Hirotoshi	4. 巻 2018-1
2. 論文標題 A Newly Identified Kuchean Fragment of the Hariscandravadana Housed in the Russian Collection	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Written Monuments of the Orient	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荻原裕敏	4. 巻 40
2. 論文標題 古代期トカラ語Bによる韻文題記について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 153-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒川慎太郎・橋堂晃一	4. 巻 96
2. 論文標題 ロシア所蔵「観心十法界図」の西夏文について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 71-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋堂晃一・荒川慎太郎	4. 巻 1477
2. 論文標題 「観心十法界図」をめぐる新研究：西夏とウイグルの事例を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 國華	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KITSUDO Koichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Teachings of the Cociousness Only Inserted in the Chapter 6 Book 4 of the Altun Yaruk Sudur	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Unter dem Bodhi-Baum: Festschrift für Klaus Rohrborn anlässlich des 80. Geburtstags	6. 最初と最後の頁 187-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴保	4. 巻 33
2. 論文標題 西夏の官文書の書式に関する基礎的研究：カラホト出土文書と法令規定との対応関係の考察を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内陸アジア言語の研究	6. 最初と最後の頁 87-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴保	4. 巻 29
2. 論文標題 カラホト出土軍籍から見た西夏王国国境地帯の状況（II）：虚偽の記載とその背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 比較文化研究	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 'Imad al-Din Shaykh al-Hukama'i・渡部良子・松井太	4. 巻 32
2. 論文標題 ジャライル朝シャイフ=ウwis発行モンゴル語・ペルシア語合璧命令文書断簡2点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 内陸アジア言語の研究	6. 最初と最後の頁 49-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松井太	4. 巻 0
2. 論文標題 トウルフアン=ウイグル人社會の連保組織	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 敦煌・吐魯番文書の世界とその時代	6. 最初と最後の頁 287-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dai MATSUI	4. 巻 0
2. 論文標題 An Old Uigur Account Book for Manichaeian and Buddhist Monasteries from Temple in Qoco	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Zur lichten Heimat	6. 最初と最後の頁 409-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dai MATSUI	4. 巻 2
2. 論文標題 Mazar Tagh Harabesi'nden getirilen Eski Turkce-Cince bir lugatce	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Prof. Dr. Talat Tekin hatira kitabi	6. 最初と最後の頁 679-696
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 2017-3
2. 論文標題 英國圖書館藏“蕃漢語詞對譯”殘片(Or.12380/3948)再考	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 敦煌研究	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.13584/j.cnki.issn1000-4106.2017.03.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 2017-3
2. 論文標題 蒙古時代の畏兀兒農民與佛教教團	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 西域研究	6. 最初と最後の頁 97-115
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.16363/j.cnki.xyyj.2017.03.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 2017-1
2. 論文標題 吐魯番諸城古回鶻語稱謂	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 吐魯番學研究	6. 最初と最後の頁 95-116
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 2018-2
2. 論文標題 榆林窟第16窟叙利亞字回鶻文景教徒題記	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 敦煌研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Dai MATSUI	4. 巻 0
2. 論文標題 Remarks on Buyan-Qaya. A Uigur Buddhist Pilgrim to Dunhuang	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Festschrift for Prof. Klaus Roehrborn dedicated on his 80th birthday	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木崇敏	4. 巻 71
2. 論文標題 貞明七年四月僧道欽惠永等請免役状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史論	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩尾一史	4. 巻 0
2. 論文標題 古チベット語史料からみた10世紀前半の青海東部地域	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開	6. 最初と最後の頁 7-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazushi IWAO	4. 巻 41
2. 論文標題 Reusing Sheets of Tibetan Satasahasrika-prjnaparamita in Dunhuang	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 龍谷大学佛教文化研究所所報	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koichi KITSUDO and Peter ZIEME	4. 巻 6
2. 論文標題 The Jin 'gangjing zuan 金剛經纂 in Old Uighur with Parallels in Tangut and Chinese	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Written Monuments of the Orient	6. 最初と最後の頁 43-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 橘堂晃一	4. 巻 32
2. 論文標題 新発見のウイグル文『仏説善悪因果経』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 内陸アジア言語の研究	6. 最初と最後の頁 33-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林美希・齊藤茂雄	4. 巻 39
2. 論文標題 西安碑林博物館蔵「鐸地直侍墓誌」(唐・開元一一年)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 史滴	6. 最初と最後の頁 92-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴保	4. 巻 28
2. 論文標題 カラホト出土軍籍から見た西夏王国国境地帯の状況	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較文化研究	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 19件）

1. 発表者名 MATSUI Dai
2. 発表標題 Mongol Decrees and the Uigur Script
3. 学会等名 International Symposium: Designing Voices and Letters: The Mongols as an Empire of Communication (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松井太
2. 発表標題 「幾龍治水」與古回鶻族中民間信仰
3. 学会等名 第六屆世界漢學大會 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MATSUI Dai
2. 発表標題 Old Uigur Socio-Economic Documents: Philological and Historical Perspectives
3. 学会等名 第30期中国少数民族語言研究院系列講座 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松井太
2. 発表標題 回鶻佛教の僧号“昆尼”與龜茲佛教・漢人佛教
3. 学会等名 絲綢之路民族語言研究工作坊 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松井太
2. 発表標題 高昌回鶻王國佛僧的敦煌巡禮
3. 学会等名 絲綢之路民族語言研究工作坊（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MATSUI Dai
2. 発表標題 Old Uigur Pilgrim Inscriptions at Dunhuang and Turfan
3. 学会等名 94. Collegium Turfanicum（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤木崇敏
2. 発表標題 曹氏帰義軍節度使時代の敦煌石窟と供養人像（二）
3. 学会等名 中日敦煌写本文献學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 IWA0 Kazushi
2. 発表標題 The Tibetan Empire and Multi-Ethnic Groups under Its Rule
3. 学会等名 首屆藏学交流工作坊及《蛾眉月》雜誌啓動儀式（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MITAINI Mazumi, IWAO Kazushi, SHIBA Masahito
2. 発表標題 Current Status of IDP-Japan and Ryukoku University Digital Archives Research Center (DARC)
3. 学会等名 IDP Partners Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KITSUDO Koichi
2. 発表標題 Text and Painting in Uyghur Buddhism with Pararell to the Tangut Materials
3. 学会等名 Dunhuang and Silk Road Seminars (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋堂晃一
2. 発表標題 つながらない写本たち(つながってくれたらいいのに)
3. 学会等名 国際シンポジウム「断片がつなぐ世界各地の吐魯番出土写本コレクション」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齊藤茂雄
2. 発表標題 汪古部以前の突厥人：9到10世紀於陰山以及代北突厥系遊牧民的活動
3. 学会等名 “13-14世紀波斯文史料及蒙古史研究” 學術研討会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村陽子
2. 発表標題 シルクロード探險隊と黃文弼地圖：その共通性と学術的価値
3. 学会等名 白山史学会第55回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松井太
2. 発表標題 榆林窟第16窟叙利亞字回鶻文題記
3. 学会等名 2017敦煌論壇：交融与創新：紀念段文傑先生生誕100年國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Dai MATSUI
2. 発表標題 Uigur Migrations in Eastern Mongol Eurasia
3. 学会等名 Migrations in Mongol Eurasia（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 赤木崇敏
2. 発表標題 10世紀敦煌石窟の供養人像の調査研究
3. 学会等名 内陸アジア出土古文献研究会2017年度第4回例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 赤木崇敏
2. 発表標題 曹氏節度使家族譜系所見敦煌帰義軍史再考
3. 学会等名 絲路文明論壇第3期 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazushi IWAO
2. 発表標題 Diplomatic Process of Sino-Tibetan Peace Treaty (821-823)
3. 学会等名 第2回京都大学白眉センター・シッキム大学国際ワークショップ Human Sustainability (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩尾一史
2. 発表標題 古チベット語『年代記』と『編年記』の敦煌写本とその書写年代
3. 学会等名 第62回国際東方学会議 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazushi IWAO
2. 発表標題 Epigraphic Culture of the Early Tibet
3. 学会等名 International Seminar on Tibetan Languages and Historical Documents (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩尾一史
2. 発表標題 古代チベット支配下の敦煌とチベットの仏教
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化研究センター国際シンポジウム「チベットの宗教文化と梵文写本研究」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 橘堂晃一
2. 発表標題 ウイグルにおける「観心十法界図」の諸相
3. 学会等名 仏教文化研究所研究談話会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Koichi KITSUDO
2. 発表標題 New Interpretation of the Hell Scenes from Bezeklik Cave 18 according to the Tangut Material
3. 学会等名 Collegium Turfanicum 90(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林美希・齊藤茂雄
2. 発表標題 トルコ系遊牧民と北衛禁軍
3. 学会等名 第9回東アジア石刻研究会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齊藤茂雄
2. 発表標題 隋末唐初の戦乱に対する突厥第一可汗国の「介入」
3. 学会等名 「古代ユーラシア東部における政治と交流」ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村陽子・北本朝展
2. 発表標題 西方探険隊与黄文弼地図：其共同性与学术價值
3. 学会等名 北京大学与絲綢之路：中国西北科学考察团九十周年高峰论坛（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 西村陽子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 389
3. 書名 唐代沙陀突厥史の研究	

1. 著者名 松井太・荒川慎太郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 521
3. 書名 敦煌石窟多言語資料集成	

1. 著者名 岩尾一史・池田巧	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学人文科学研究所	5. 総ページ数 446
3. 書名 チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://osaka-u.academia.edu/DaiMATSUI https://ryukoku.academia.edu/KazushiIwao https://independent.academia.edu/OGIHARAHirotoshi https://ryukoku.academia.edu/KOICHIKITSUDO https://jsps.academia.edu/ShigeoSAITO https://toyo.academia.edu/YokoNishimura
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	赤木 崇敏 (AKAGI Takatoshi) (00566656)	東京女子大学・現代教養学部・准教授 (32652)	
研究分担者	岩尾 一史 (IWA0 Kazushi) (90566655)	龍谷大学・文学部・准教授 (34316)	
研究分担者	荻原 裕敏 (OGIHARA Hirotoshi) (60762135)	京都大学・白眉センター・特定准教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橘堂 晃一 (KITSUDO Koichi) (00598295)	龍谷大学・公立大学の部局等・研究員 (34316)	
研究分担者	佐藤 貴保 (SATO Takayasu) (40403026)	盛岡大学・文学部・准教授 (31203)	
研究分担者	西村 陽子 (NISHIMURA Yoko) (70455195)	東洋大学・文学部・准教授 (32663)	
研究分担者	齊藤 茂雄 (SAITO Shigeo) (70634690)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・日本学術振興会特別研究員 (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 研究セミナー「Ulus system of the Mongol Empire」	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 2017年度内陸アジア史学会大会	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関